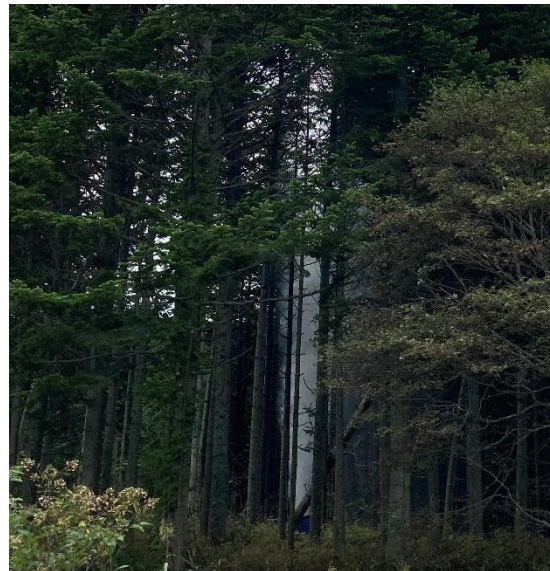


Ⅷ. 編集後記

高さ数十メートルに及ぶ巨大な水柱が立ったとのニュースが報道された。8月8日、北海道南部の長万部町の飯生神社境内にある林の中の出来事である。多い日には数千もの観光客が集まっているという。休暇を取って羊蹄山の登山を予定していた筆者も、計画の中に長万部立ち寄りを加え8月30日その見物客の一人となった。

札幌方面から高速道を南下し長万部のインターを降り、町に向かう国道5号線の跨線橋に車がさしかかると、まさにその水柱が見える。もちろん観光地ではないので案内板があるわけなので、手がかりもなくうろうろと車をまわし神社を探した。ほどなく神社は見つかったが、特別な駐車場などなく、近くにいた誘導員に10分程離れた公共施設に車を止めるよう指示される。そこで車を降りた途端、何やら大きな轟轟という機械音に驚いた。騒音で住民が大変な迷惑を受けていると報道されていたので、これが水柱の音だとすぐに理解することができた。

まずは神社にお参りし、目的地である吹き出し口へ向かった。まっすぐ立つ杉の木に並行して天に向かって噴き出しているため、初めは確認しにくかったが、確かに林の中に轟音とともに白く勢いよく吹き上がる水柱がみえる。間欠泉ではなく連続して噴出している。報道によれば水温25度以下であり、昔の基準ではこれは温泉ではなく鉱泉に分類される。噴出している場所には1950年代末に天然ガスや温泉を探すために試錐調査が行われたようで水はその付近から出ているらしい。その頃には金属鉱業事業団も石油公団も存在していないので我々は直接関係なさそうである。食塩泉であることから塩害が起きたり、鉄やマンガンを多く含んでいることから茶色や黒の着色が起きたりする可能性があるとのことである。町によれば、水柱による騒音で眠れないといった声が近くの住民から寄せられているが、今回の調査結果を受けて長万部町は人体に影響を及ぼすほどではないということで安心しているが、騒音による被害の訴えが相次いでいることから、早急に対応を講じたいとしている。



これに先立つ7月30日、地球の裏側チリでは、水柱でなく大きな陥没があった。大きな穴は首都サンチアゴの北約665kmにあるカナダのLundin Mining社の銅鉱山が運営する土地にできた。チリ当局は1日、同国北部の鉱山地帯で週末に発生した直径約25mの謎の陥没穴の調査を開始した。国家地質鉱業局Sernageominによると陥没は底まで約200mあり、底に物質は検出されていないが、大量の水の存在が確認されたという。陥没穴の近くに位置するAlcaparrosa 鉱山の入り口から作業現場までのエリアが閉鎖された。ちなみに、

Candelaria として知られる同プロジェクトは Lundin 社 80%、日本の住友金属鉱山と住友商事が残りの 20%を保有している。

Candelaria 鉱山は、露天掘りおよび坑内掘りで銅鉱石を採掘し、うち Ojos del Salado はサブレベルストッピング採鉱方式で Santos (5,300 トン/日) と Alcaparrosa (4,400 トン/日) の 2 つの地下鉱山から鉱石を採掘している。

金属鉱山ではないが日本でも 2015 年の豪雨災害で大谷地区にあった坑の一つが崩落し、近くの農地の土や水が流れ込む事態が報道された。宇都宮市北部にある大谷石の採石場では 1989 年以降、陥没が相次いでいた。人的被害はなかったものの、一部は住宅も被害に遭った。採石業者でつくる大谷石材協同組合によると、陥没は 1989 年～2019 年に計 6 回あった。最初の陥没は、35 世帯 150 人が避難を余儀なくされたという。範囲は東西約 115 メートル、南北約 160 メートル、深さは最大約 30 メートルに及んだ。盛期の 1970 年頃には、約 120 の採石業者が年間約 89 万トンを出荷していた。近年は採石業者の廃業もあって地下に残る坑道の数把握できなくなり、坑道につながる坑だけでも、少なくとも 200 か所以上が埋め戻されていない状態だという。陥没から 31 年がたった 2020 年 4 月、埋め戻しに向けた工事が始まり、住民からは歓迎の声が聞かれる。

一方でこの地域は観光開発により復興を目指している。2013 年の資料館の再開、チイキカチ計画を設立。翌年、水のたまった地下空間をボートで巡る地底湖クルージングを始めた。

大谷石を掘り、使用する文化が 2019 年 5 月、日本遺産に認定された。旧坑道でコンサートを開催したりワイン貯蔵などの活用の話も聞かれる。鉱業遺産をうまく活用する知恵も必要かもしれない。

今年起きた事件は、鉱業やそれに関連する活動は、思わぬところで災害を引き起こす可能性がある事をまざまざと感じる出来事であった。大谷石の様に負の遺産をうまく活用することができれば幸いであるが、ESG などが注目される中、今後の活動・計画に対する配慮はもとより、これまでの鉱業活動への見えないチェックも重要であると考えます。長万部は債権者が不在とのことであったが幸い 9 月末には水柱の吹き出しは収まったようであるが、チリでは調査を進め、関連業者には厳罰を科す構えであるとのこと先行きが気になるところである。